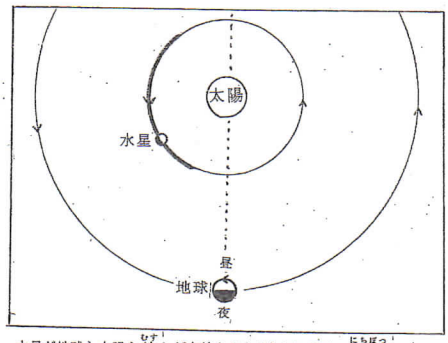
☆天文の基礎知識 ―― 水星観察の好期(チャンス) ――



水星が地球と太陽を結んだ点線より左がわにいる時は日没後、右がわにいる時は日の出前に見られる!

太陽の周りを回っている八つの惑星のうち、１番太陽に近い軌道を回っているのが水星で、２番目が金星、３番目が地球であることは、小中学生のみなさんが知っている通りです。

そのため、地球に住んでいる私たちには、水星と金星はいつも太陽の近くに見えて、火星や木星・土星などのように太陽の反対側に来て真夜中に南の空を通っていくことがありません。

特に水星は太陽の大変近くにいるので、日中の明るい時に空を通って行く日が多く、観察しにくい星です。

しかし、右の図の太い線で書いたあたりを水星が移動している場合は、日が沈んだ後の低い西空に１時間くらい見えることが約２～３週間続き、それが１年に３回くらいあります。今月（10月）２０日前後にもそのようになるので観察のチャンスです。

その水星も、他の惑星と同じように、自らは光をほとんど出さないで、太陽からの光の反射によって光って見えます。そのため、肉眼や双眼鏡では小さな丸い点にしか見えませんが、望遠鏡で見ると月のように満ち欠けし、上に書いた夕方の場合は、月に例えると上弦くらいに相当する約右側半分が光って見えます。(ただ、望遠鏡では一般に何でも上下左右が反対に見えるので、月の下弦のような左側半分くらいが光っているように見えます。)

浅瀬石小で『星を見る会』

９月７日(土)の夜、浅瀬石小学校で「星を見る会」が行なわれました。小学４年の理科で「星の動き」について学ぶため、浅小４年生の親子行事もかねて開催。初登場のでっかい４０cmなどの天体望遠鏡で、木星のしまもようとまわりを回っている４個のガリレオ衛星をはじめ、半月の月面のあなぼこ(クレーター)、そして環がとても美しい土星をじっくり観察しました。また「星の動き」では、東西南北やま上の星がどう動いていくのか時間をずらして観察し、空全体の星が動いていくようすを実体験してもらいました。人気の「ちゅうせん会」では本物のいん石やほうき星（すい星）のポスターなどのいろいろな天文グッズが、子どもたちにもれなく当たりました。

来年春、閉校になる浅小最後の「星を見る会」は浅小のみなさんと市民合わせて４２人が参加し、おどろきと感動とロマンがあふれていました。

星の動き方も学びました。北極星も見つけたよ！

月面のクレーターが見えすぎてビックリ！(13cm 望遠鏡)